



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行所 出雲路 善公
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
(0577) 32-0776
*毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ
照らされて

終戦記念日に思う

正親 久美子



〈略歴〉
一九五三年、兵庫県姫路市の西寶寺に生まれる。
一九九三年、坊主就任。
二〇〇二年、教師資格取得。現在、真宗大谷派坊主会連盟委員長。

八月十五日、七十回目の終戦記念日を迎えた。
現在、戦争を知らない世代は人口の八割を占めるようになったそうである。
私もその中の一人である。
朝鮮戦争の終わった頃に生まれ、日本の高度経済成長とともに成人し、第一次オイルショックによる狂乱物価時代を学生生活の終わりに経験した世代である。

この七十年の間に、米ソの冷戦体制は終わり、米国の一極支配に移行し、二十一世紀に入ると中国の台頭が顕著になるなど、国際情勢も様変わりした。
戦後七十年が、五十年や六十年と異なるのは、「三・一一」を経験したこととあり、核の問題が再

び大きく私たちの生活にのしかかったことにある。
思い起こせば、八月というのは、小学生の頃から、戦争と平和、核兵器というものについて考える期間だった。八月六日の広島や九日の長崎への原爆投下、そして十五日の終戦記念日。どうして戦争をはじめたのか、なぜもつとはやく戦争をやめたかったのか。あの戦争への反省が、今の日本の原点であることを胸にきざむ時間であった。過去と向き合い、今を見つめ、未来への誓いを新たにする日でもあった。

歴史を学ばなければ、反省することはできない。江戸時代の長い鎖国から、幕末の開港。明治維新による近代化、富国強兵、殖産興業。欧米列強への強いあこがれによって、日清・日露戦争、そして日中、太平洋戦争へと突き進んでいく。世界のすべての人民が天皇の下に集まり、一つの世界を形成しようという「八紘一宇」のスローガンがすべてを物語っているようにも思える。とはいえ、その頃、女は臣民として扱われていなかったが、。
つい先日、「一億総懺悔」の意味を誤って理解していた人に出会った。侵略したアジアの人々に日本国民が皆でわびることだと誤解していたのである。戦後の教育を受けた者には、ある意味、このほうが納得できるし、私

も学生のときにこの言葉の意味を知り愕然とした記憶があった。本当は、敗戦直後の内閣のスローガンで、国民の総懺悔によって天皇に敗戦の失態をわびようという趣旨であった。全く反対なのである。
人類の歴史は、科学技術の面では素晴らしい発展をとげ、輝かしいものといえるだろうが、同時に戦争の歴史でもある。日本はこの七十年間、戦禍にあうことはなかった。しかし、世界はどうだろうか。戦争や紛争が起こっていない時はなかった。米軍基地を持つ日本が、ベトナム戦争や湾岸戦争に関わっていないか。戦争は人間を野獣に変えてしまう。『歎異抄』には、「『さるべき業縁のものよおせば、いかなるふるまいもすべし』とこそ聖人はおおせせうらいにしに。」(『真宗聖典』634頁)とある。人間はどこまでいっても自己中心であり、愚かであり、罪深いものである。だからこそ、自らの愚かさを照らし出してくださる仏様の智慧を依り処とし、お互いを敬い合う生き方を、親鸞聖人は教えてくださった。
敗戦後、日本は物の見方の異なる人々を理解し、

世界の人々と手を携えて平和と繁栄の道を築こうと努めてきた。しかし、お互い自国の利益を最優先するため、他国との間に深い溝や高い壁を作ったりし、なかなか友好関係が築けず胸が痛むのも事実である。
戦争の悲惨さや核の恐ろしさを一番よく知っているのは私たち日本人である。そして、「いのち」の尊さに立とうとして私たちが真宗門徒が、今、何をなすべきかが問われている。まさに正念場である。

飛驒の真宗
伝承散歩⑱ 葉 朴 袋 高山市清見町池本

昔々、清見の西正寺の近くに大きな池がありました。その池には白い大蛇が住んでいました。
西正寺の住職は人々から厚い信頼を受けていて、多くの人がお参りに来ていました。その中に、一人の上品な女性がいました。いつも静かに法話を聞いて静かに帰っていました。村人は女性が何者なのか、誰も知りません。
ある雨の晩、お寺の戸を叩く音がしたので住職が出てみると、その女性が立っていました。
「夫が病に倒れました。どうかお薬をくださいませんか。」
それを聞き、住職は薬を渡しました。女性はそれからたびたび薬をもらいに来ました。
ある日、住職は夢を見ました。あの女性が住職にこういいます。
「私はあの池に住む白蛇です。今までのご恩は決して忘れません。夫は亡くなりました。供養のため、お経を書いた紙を朴葉に乗せて満月の晩に池へ浮かべてください。お礼に極楽の鐘を寄進いたします。」

女性はこう言うと、真っ白な蛇となって消えました。
住職は満月のたびに経文を朴葉に乗せて池へ浮かべました。それを見た村人は、住職はどうしたんだと気がかりになっていました。
ある晩、女性が住職の夢枕に立ちました。
「鐘を運んでまいりましたが、私の力では池から浮かび上がらせることができません。」と、さめざめと泣きました。
何年か経ち、住職は病を患い、いよいよ臨終という時にこう言いました。
「私が死んでから朴の木に釣鐘のようなものができたら、白蛇が約束を守ったと思ってやってくれ。そして私が浄土に往生したと思って安心してくれ。」
翌年、朴の木に釣鐘の形の葉が垂れ下がっていました。村人たちは住職の言葉に嘘はなかったと驚嘆し、念仏申したということです。



おしなま
おしなま
問 仏滅の日は結婚式の費用を控へよう
答 「仏滅」のほかに「先勝」、「先負」、「赤口」、「友引」、「大安」と書かれているのをカレンダーや手帳などで見たことがあると思います。これは「六曜」といい、暦上の日を六種類の吉凶に分けたもので、中国の陰陽道がもとになっているといわれます。「仏滅」は六曜のなかで最も凶の日とされており、婚礼などお祝い事を避けるべき日といわれています。

よって「仏滅」に式を挙げる人が少ないということ、費用が安くなったのでしょうか。
これは根拠のない迷信ですが、慣習だからといわれると途端に不安になったり、悩んだりする。これは私たちが災いを避けて生きていきたいという気持ちの表われなのではないでしょうか。
楽をしたい、いやなことは避けたいという気持ちは誰にでもあります。しかしそれは本当の生き方なのでしょうか。
人生で二度と経験することのない、かけがえない今日や明日を精一杯生きることができないでしょうか。よいと思う日も悪いと思う日も自身の歩みです。それらを積み重ねて「自分の人生」を歩んでゆきたいものです。

☎テレビホン電話(0577)342313 ☎9月21日~30日:森香里氏「秋聲」 ☎10月1日~10日:島田正子氏「一念」
○10月11日~20日:龍池玲奈主事補「教務所」
宗教トラブル相談窓口(0577)3210763

ひだご坊

家族で語ろう

私を照らす

ひかりの言葉 ⑩

酒井 義一

千年以上も生き続ける杉

鹿児島県の南に位置する屋久島には、屋久杉という名の杉が自生しています。屋久島に生えている杉はすべて屋久杉なのかというところではなく、樹齢千年以上の杉を屋久杉と呼ぶのだそうです。樹齢が千年に満たない杉は、小杉と云います。たとえ樹齢九八〇年であつても、それは小杉と呼ばれます。千年という時を経た杉だけが、世界遺産「屋久島」を象徴する屋久杉となるのです。

ところで、杉の寿命はどのくらいかというところ、五百年程しか生きられないのだそうです。その五百年しか生きられない杉が、屋久島では千年も二千年も三千年も生き続けるのです。

石を包み込むように

では、屋久島の環境は、杉にとってそれほど豊かなのでしょうか。実はその逆です。屋久島は火山でできた島なので、岩がゴツゴツしていて、栄養分があまり豊かではありません。

そこに杉が芽生え、やがて根を伸ばします。土を求めてどこまでも根を張ります。邪魔になるような石があれば、その石をどけるのではなく、石を包み込むように根を張ります。自らが倒れないためにです。杉はどんどん高く伸びようと

ます。しかし、非常に強い台風が通る屋久島では、台風の度に手足がもがれるようにして枝が折れてしまうこともあります。けれども、そのような環境の中で大地にしっかりと根を張り、石を包み込み、折れた枝はコブにしながら、見事な屋久杉になるわけです。

屋久島にある縄文杉という杉は推定樹齢三千年以上と言われています。高さは何メートルあるかといえ、そんなに高くはありません。三〇メートルです。なぜならば、雷に打たれて上が折れているからです。そして、胴回りが十六メートル。そこには幹がこぶのようにうねりながら盛り上がり、見るものを圧倒する、どっしりとした縄文杉のすがたがあります。

雷に打たれるかのような

人間が生きていく上には、石のように行く手を阻むような出来事があります。あの事さえなければと感ずるようなことも起こります。そして時には、手足をもがれるような痛みや辛さを感じることもあります。身近な人との悲しい別れなど、それらはまるで雷に打たれるかのような出来事なのではないでしょうか。それが生きるということでもあります。

コブにすればよい

しかし、そのような人生にあつて辛いことはなるべく避けて、逃げて、忘れ去っていく。あるいは、邪魔な石はどけていく、ということではない生き方があるということ、屋久島に生きる屋久杉は、私たちに教えているのではないのでしょうか。

子ども作品展

作品募集

行く手を阻む石のようなことがあれば、それを包み込めばよい。手足をもがれるような悲しく辛い出来事があれば、それをコブにすればよい。まるでそのように屋久杉が私たちに語っているかのようです。それは、幾多の困難を積み重ねたからこそ、見事な姿に成長した屋久杉の、無言のメッセージなのかもしれません。

けしうしなわずして

親鸞聖人は言われます。「つみを、けしうしなわずして、善になすなり」南無阿彌陀仏の世界は、罪や悪というものを消し失わずして、善や徳へと変え成す世界なのだといふのです。幾多の苦難を体験し、時を大切に積み重ね、自分にしか出せない味を持つ屋久杉のすがたに、消さず失わずの世界が重なって感じられてきます。



次回の「家族で語ろう」はお休みします。藤場芳子さんの「女と男のナムアミダブツ」は第36号(11月20日発行)に掲載となります。

高山別院報恩講

帰敬式受式者募集



10月24日(土)から11月7日(土)まで、高山別院本堂にて「子ども作品展」を開催します。ぜひご応募ください。締切 10月9日(金)必着 書道の部 (課題) 小学二年以下「はす」小学二年「ともしび」小学三年「寺のにわ」小学四年「信ずる心」小学五年「念仏の道」小学六年「如来大悲」中学生「御坊報恩講」(書風・用紙) 小学生 楷書・半紙 中学生 楷書または行書 半切1/4紙

「坊報恩講のついで」

「はだしのゲン」

立休講談 講談師 神田 香織 9歳の少年ゲンが見た広島、戦争と原爆の真実を演じる感動の舞台。日時 10月31日(土) 第一部公演 午後2時 旧湯屋小学校 (下呂市小坂町) 第二部公演 午後7時 高山別院本堂 入場料 1000円 (学生無料)

「原爆の図」の 継続展示決定!

この夏に開催された、戦後70年企画「非戦平和展」にて、多くのカンパ金をいただきましたので、「原爆の図」(丸木位里俊作)の継続展示が可能になりました。今後、別院仏事の際、本堂内にて展示をする予定です。ぜひ、お立ち寄りいただき、共に平和をたずねてまいりましょう。 9月19日〜26日(秋彼岸) 原爆の図 第四部「虹」 第五部「少女」 10月31日〜11月8日(報恩講) 原爆の図 第一部「幽霊」(原寸大) ※見学無料



秋の彼岸会。永代経法要

亡き方を縁として仏法に出遇う大切な仏事です。ぜひお参りください。 9月20日(日)〜26日(土) 午後1時から勤行・法話

- 20日(日) 出雲路善公 (別院輪番)
21日(月) 岩佐 幾代氏(浄永寺坊守)
22日(火) 四衢 亮氏(不遠寺住職)
23日(水) 竹田 雅文氏(東等寺住職)
24日(木) 三本 昌之氏(蓮徳寺住職)
25日(金) 小原 正憲氏(専念寺住職)
26日(土) 坂上 祥司氏(靈雲寺住職)

お彼岸バザー開催!! お彼岸期間中、本堂下にて御坊さま名物のおはぎやポストカード等の販売を行います。お参りの際にはぜひお立ち寄りください。